

## 第6学年国語科学習指導案

日 時：令和4年11月24日 公開授業1

対象学級：6年1組 32名

指導者：村田 慶

### 1 単元名

古典芸能のおもしろさを紹介しよう これが私のお気に入り

教材名 「古典芸能の世界ー演じて伝える」「狂言 柿山伏」「『柿山伏』について」

(光村図書 6年)

### 2 内容のまとめ

第5学年及び第6学年

- 1 [知識及び技能] (3) ア, イ
- 2 [思考力, 判断力, 表現力等] C 読むこと (1) エ

### 3 単元の目標

- (1) 親しみやすい古文や漢文, 近代以降の文語調の文章を音読するなどして, 言葉の響きやリズムに親しむことができる。  
[知識・技能] (3) ア
- (2) 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して, 昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。  
[知識・技能] (3) イ
- (3) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり, 表現の効果を考えたりすることができる。  
[思考・判断・表現] C (1) エ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに, 進んで読書をし, 国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。  
[学びに向かう力, 人間性等]

### 4 単元について

#### (1) 児童について

ア これまで, 前学年において伝統話芸である「落語」について学習した。また, 6年間を通して昔話や俳句, 短歌, 古文など, さまざまな古典作品に触れ, 音読や暗唱などを通して, 文語の調子や言葉の響きを体感しながら, 作品に親しんできた。

イ 前単元「ブックトークで, 本の魅力を伝え合おう」において, ロイロノートを使用し, グループごとにテーマに沿って選んだ本の魅力を学級の仲間へ伝えるために, より魅力が伝わる言葉や挿絵, 写真について話し合ったり資料を作成したりしながら考えをまとめた学習経験がある。

ウ 言葉の響きやリズムを意識して音読したり, ロイロノートを使ってプレゼンテーションを行ったりする力が身に付いてきている。

#### (2) 教材について

ア 「古典芸能の世界ー演じて伝える」は, 5年生で学習した「古典芸能の世界ー語りで伝える」に引き続き, 現代にいきる伝統的な言語文化を学ぶ単元として位置付いたものである。本教材では, 古典芸能である狂言, 能, 歌舞伎, 人形浄瑠璃(文楽)の4つの演劇を取り上げている。それぞれの古典芸能の特徴を捉え, 興味をもった作品について実際に視聴したり調べたりすることに適した教材である。

イ 「狂言 柿山伏」は、修行を終えたばかりの山伏が、空腹のあまり人の家の柿を盗んで食べてしまったところを柿主に見つかってしまい、あわててごまかそうとするやりとりが滑稽に描かれた作品である。徳の高い権威の象徴ともいえる山伏が柿主にやり込められてしまう場面は、狂言独特の擬声語や擬態語、言い回し、リズム、反復などの表現のおもしろさを味わうことができ、音読したり演じたりすることに適した教材である。

### (3) 指導について

#### ア 本單元における言語活動の特徴等

「古典芸能のおもしろさを紹介する」という言語活動を設定する。「古典芸能のおもしろさ」を、登場人物の言葉やしぐさ、話の展開、昔の人のものの見方や感じ方などから児童が心をひかれた場面と位置付け、そのおもしろさが伝わる場面を選ぶために繰り返し音読することで、独特のリズムや言葉の言い回しなどを味わったり昔の人のものの見方や感じ方への理解を深めたりすることができるようにしたい。また、紹介する相手を1年生に設定することで、児童が感じたおもしろさをより分かりやすく表現することができるようにしたい。

#### イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫等

「主体的な学び」を実現するために、単元のゴールを「古典芸能『狂言 柿山伏』のおもしろさを、1年生に紹介する」と設定し、1年生にも分かりやすく古典芸能のおもしろさを紹介するという目的意識をもって学習に取り組むことができるようにする。

「対話的な学び」を実現するために、感想を共有したり、グループで1年生に紹介する資料の内容を考えたりする場面を設定する。古典芸能について知る場面では、児童がもった興味、関心、疑問などを全体で共有することで、内容の大体を捉えさせるとともに、古典芸能への興味や関心を深めることができるようにする。グループで資料の内容を考える場面では、どのように音読するかを検討させることで、言葉に着目しながら、古典芸能を表現するおもしろさを味わうことができるようにする。

「深い学び」を実現するために、対話によって生まれた共通点や相違点を明らかにし、新たな発見や気づきなどを価値付けていく。特に、グループで資料を作成する際に、紹介する相手である1年生を意識させることで、独特のリズムや言い回しのなどの音読の仕方をより分かりやすく表現できるようにする。目的意識、相手意識をもたせ、どの表現の仕方がよいかを比較・検討していくことで、児童が古典芸能のおもしろさを味わい実感することができるようにする。

#### ウ 研究の手立てとのかかわり

電子黒板にデジタル教科書を投影したりタブレットに資料を配付したりすることで、焦点化・共有化を図る。また、ロイロノートを活用し、紹介したい内容が1年生に伝わるように、文章の構成や量、音声や動画などの表現の仕方を考えさせながらプレゼンテーションに必要な資料を作成させる。その際、仲間と作成したものを共有したり比較検討したりすることで、単元の目標を達成するための手立てとしたい。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。 <u>(3)ア</u></p> <p>② 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。 <u>(3)イ</u></p>	<p>① 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 <u>C (1)エ</u></p>	<p>① 進んで、音読に親しみ、学習課題に沿って心地よい響きやリズムなどを味わおうとしている。</p>

## 6 指導と評価の計画（6時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次			
1 ・ 2	<p>昔から今に続いている古典芸能には、どのようなものがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・狂言、能、歌舞伎、人形浄瑠璃（文楽）の4つの古典芸能の特徴を捉え、気付いたことを共有する。</li> <li>・「狂言 附子」のおもしろさをロイロノートにまとめた教師のプレゼンテーションから、「狂言 柿山伏」のおもしろさを1年生に紹介するという単元のゴールを確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>・プレゼンテーションの構成(題名、あらすじ、おすすめの場面)を確認する。</li> </ul> <p>「狂言 柿山伏」の感想を伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「狂言 柿山伏」を読んだり動画を見たりして、関心をもった点や疑問点などを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や動画資料を活用することで、古典芸能の特徴を捉えることができるようにする。 <b>ICT (焦点化・共有化)</b></li> <li>・学習を通して、古典のおもしろさを味わっていくことを確認し、学習への意欲付けをする。</li> <li>・1年生も楽しめるように、分かりやすさとおもしろさを工夫するという必要感をもたせ、「おすすめ場面」の音読の工夫につなげる。</li> <li>・興味、関心、疑問などを共有することで、内容の大体を捉える必要感をもつことができるようにする。 <b>ICT (視覚化・共有化)</b></li> </ul>	

第二次

<p>3 ・ 4 ・ 5 本 時</p>	<p>1年生に紹介するために、「狂言 柿山伏」の内容の大体をとらえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『柿山伏』について」を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知り、山伏と柿主の人物像を捉える。</li> <li>1年生に紹介したい場面を選び、同じ場面を選んだ児童でグループを作る。</li> </ul> <p>どうしたら1年生に「狂言 柿山伏」のおもしろさが伝わるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとにプレゼンテーションに必要な資料を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔の人々の生活や文化、世の中の様子などの時代背景を理解させることで、山伏と柿主の人物像を捉えさせる。</li> <li>場面を選ぶ際には、言葉の言い回しやリズム、反復など、言葉をどのように表現しているかに着目させることで、言葉を根拠に1年生に紹介したい場面を選ぶことができるようにする。</li> <li>第一次で確認したプレゼンテーションの構成をもとに、どんな資料を見せると効果的かを考えさせ、「狂言 柿山伏」のおもしろさが1年生に伝わるような資料を準備させる。</li> </ul> <p><b>ICT (視覚化・焦点化)</b></p>	<p><b>【知・技②】</b> 〔ノート・ロイロノート〕 作品の内容の大体を捉え、昔と今のものの見方や感じ方の共通点や相違点を見いだしている。</p> <p><b>【思・判・表①】</b> 〔ノート・ロイロノート〕 時代背景をもとに登場人物の人物像を想像し、言葉の言い回しやリズム、反復などの表現の効果について考えている。</p> <p><b>【主体的①】</b> 〔行動観察・ロイロノート〕 進んで、古典芸能のおもしろさが伝わるように音読したり仲間の音読を聞いたりして、心地よい響きやリズムなどを味わおうとしている。</p>
--	--	--	--

第三次

<p>6 ・ 課 外</p>	<p>仲間の表現のよさを伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとにプレゼンテーションを完成させ、感想を共有する。</li> <li>朝読書の時間に、1年生に作成したプレゼンテーションを見せよう。</li> <li>本単元を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のグループの音読の工夫や選んだ場面の言葉に着目させ、比較したり検討したりすることで、リズムや語調のおもしろさを感覚的に味わえるようにする。</li> </ul> <p><b>ICT (視覚化・共有化)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りは、独特な言葉の言い回しや繰り返しのリズムなど、言葉や表現のおもしろさを観点に書かせることで、本単元のねらいを達成できるようにする。</li> </ul> <p><b>ICT (共有化)</b></p>	<p><b>【知・技①】</b> 〔ノート・ロイロノート〕 古典芸能のおもしろさが伝わるように音読したり演じたりして、独特な言葉の言い回しや繰り返しのリズムを味わっている。</p>
----------------------------	---	---	--

## 7 本時の指導（5時間目／全6時間）

### （1）目標

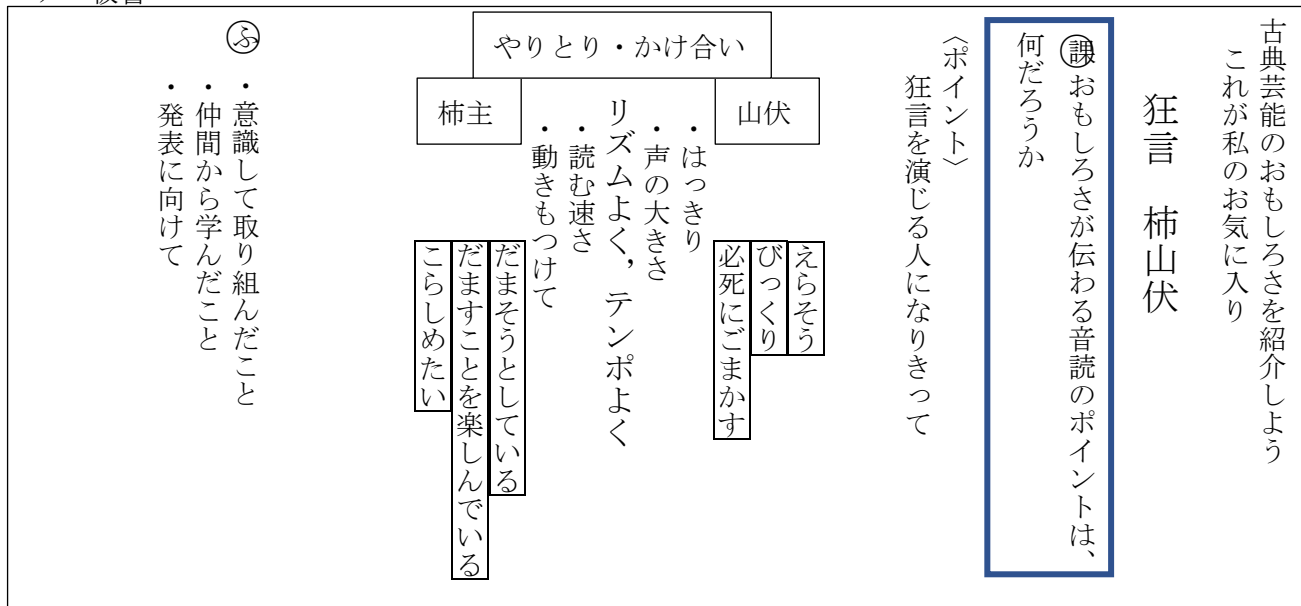
1年生に古典芸能のおもしろさが伝わるように、音読したり仲間の音読を聞いたりして、心地よい響きやリズムなどを味わうことができる。

### （2）展開

段階	学習活動	指導上の留意点（◇評価）
導入	1 前時の学習想起 2 本時の課題把握	
2分	おもしろさが伝わる音読のポイントは、何だろうか。	
展開 38分	3 課題解決 (1) 自分が感じたおもしろさを伝えるための音読のポイントを確認する。  (2) グループごとに、資料を作成する。 <b>ICT</b> （視覚化・焦点化）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次で確認したプレゼンテーションの構成をもとに、自分が感じたおもしろさを伝えるためにはどんな資料を見せると効果的かを考えさせる。</li> <li>・相手意識をもたせて、音読の工夫の仕方、文章の書き方を考えさせる。</li> <li>・必要に応じて、廊下などの広い場所も活用しながら、資料を作成させる。</li> <li>・確認したポイントに沿って、上手に音読できているグループを紹介し、よさを共有することで、活動の質を高めさせる。</li> </ul>
終末 5分	4 振り返り	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ぼくは、山伏が必死にごまかす様子が伝わるように意識して音読しました。はずかしくてうまくできなかったけど、〇〇さんの音読は、必死な山伏になりきっていて、声が大きく、テンポもよくて、聞いていてすごくおもしろさが伝わってきました。きっと1年生も楽しんでくれると思います。発表に向けて、ぼくもまねしていきたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の課題解決の取り組み方について振り返らせる。意識して取り組んだこと、仲間から学んだこと、発表に向けて頑張りたいことを観点に書かせることで、本単元のねらいを達成できるようにする。</li> </ul> <p>◇【主体的①】〔行動観察・ロイロノート〕 進んで、古典芸能のおもしろさが伝わるように音読したり仲間の音読を聞いたりして、心地よい響きやリズムなどを味わおうとしている。</p>

### (3) 板書及び電子黒板等の計画

#### ア 板書



#### イ 電子黒板

